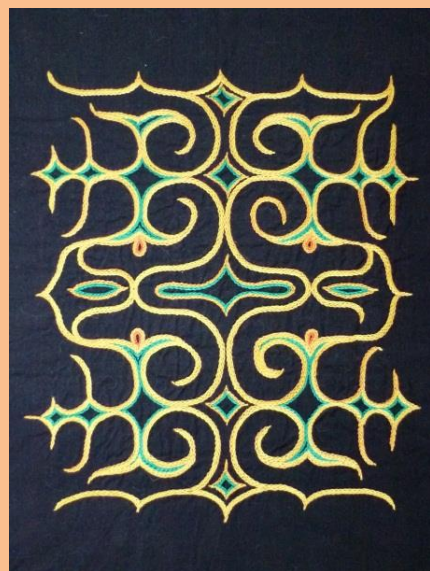


てしかが

ぽん旅マップ



アイヌ文様は魔除け=お守りの意味
どうぞ楽しい旅を!
*「ぽん」はアイヌ語で「小さい」
という意味です

てしかが(弟子屈)へようこそ!

アイヌ語のテシ(魚を採る“築”)カ(上)が命名由来となっているわが町が、文献に初めて登場したのは1859年。北海道の名づけ親でもある松浦武四郎がこの周辺を探検して歩き、記録に残してくれたためです。

それから150年以上の時が流れましたが、てしかがには今でも、アイヌの人たちが先祖からの伝統や文化を受け継ぎながら暮らしています。

町内には何か所か、そんなアイヌの人たちの習慣(アイヌプリ)に接することができる施設があります。

ぜひ、「ぽん旅」してみてください♪

【モデルコース】

川湯EMC⇒(車で10分)池の湯⇒(車で5分)古丹・コタン⇒(車で7分)和琴半島⇒(車で20分)更科源蔵文学資料館⇒(車で10分)てしかがの蔵

② 松浦武四郎碑・古丹



1858(安政5)年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

汐ならぬ

久寿里の湖に 舟うけて

身も若がえる こゝちこそすれ

といううたが刻まれた碑。

屈斜路コタンアイヌ民俗資料館前広場に建っています。右前方にはコタンの露天風呂が、左には又ササンとエペレセツ↓があります。

④ アイヌ民俗資料館



弟子屈・屈斜路地域に暮らしてきた先住民族・アイヌの人たちの歴史や文化、生活習慣などを紹介する施設。祭事具や衣装、道具など約450点を展示しています。現在では貴重な資料である「熊まつり」のスライドは必見!

4月29日~10月31日開館

9:00~17:00

高校生以上420円

小・中学生280円

TEL 015-484-2128

⑥ 更科源蔵文学資料館



更科源蔵は1904年、弟子屈村熊牛原野(当時)生まれ。「種薯」を代表作とする詩をはじめ、地方史、博物誌など、北海道の風土に根ざした多くの文学作品を世に送りだしました。代用教員として屈斜路コタンで過ごしたときに、アイヌの長老から聞き取った内容も多く残っています。

釧路圏摩周観光文化センター内

9:00~17:00 入館無料

火曜休館 TEL 015-482-1616

川湯エコミュージアムセンター

川湯の自然や歴史、文化とみなさんをつなぎ、そこへ誘う玄関口です。



入館無料!

開館日/開館時間

4月~10月 8:00~17:00

11月~3月 9:00~16:00

休館日 毎週水曜日(7月第3週~8月31日は無休、水曜祝日の場合は翌日)・年末年始(12月29日~1月3日)

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉 2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

<http://www.kawayu-eco-museum.com/>

① 松浦武四郎碑・池の湯



1858(安政5)年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

久寿里の湖

岸のいで湯や あつからん

水乞鳥の 水乞ふて鳴く

といううたが刻まれた碑があります。

今こそ露天風呂マニアに人気の場所ですが、もともとはアイヌの人たちが利用していました。碑は露天風呂の右奥にあるのですが、草が伸びている時期にはわかりにくいかもしれません。

③ 又ササン&エペレセツ



どちらもアイヌ語で、又ササンは「祭壇」、エペレセツはエペレ(子クマ)+セツ(家)=子クマの檻のことをいいます。

又ササンは、とても神聖な場所。祭事はすべて、ここで行われます。エペレセツは、冬ごもり中のクマを獲ったとき一緒に子クマがいたら、コタン(村)に連れて帰って飼育するためのもの。この子クマは1~2年ほど飼育した後、イオマンテをして神の国へ送られます。エペレセツはどの家からも見えるコタンの中心に置かれました。

⑤ 和琴半島



屈斜路湖に突き出した半島で、アイヌ語のワッコチ(魚の尾のくびれたところ)から命名されています。1周2.5km約1時間で歩ける自然探勝路が整備されています。

先端部にあり、今も噴煙を上げているオヤコツ地獄のオヤコツとは、アイヌ語で「尻が・陸地に・くっついて」という意。中島には昔、アイヌのチャシ(砦)があったとも伝えられています。

⑦ てしかがの蔵



硫黄山を取り巻く環境の移り変わりや生活ぶりなど、てしかがの生きた歴史を紹介しています。戦後まもなく、アイヌの人たちが阿寒湖で始め、現在まで続く「まりも祭り」の貴重な写真などもあります。

入館は無料ですが、開館日が不定期なので、事前にお問い合わせください。

*弟子屈町教育委員会

TEL 015-482-2948

場所は弟子屈郵便局むかい、です。